

電子複写不可

1287

昭和一九一〇  
独立歩兵才田大隊戦闘詳報

防衛研修所戦史部



南洋群島

南洋群島

軍事極秘

戰詳第六號

昭和十九年十月十日

一〇〇〇南西空龍戰闘詳報

3

手

2700-18

添	添
厚四第第六號(部)	昭和十九年十月十日
石第三五九五部隊	御中

獨立步兵第十大隊

防衛研修片

御中

昭和33年4月米政府返還旧日本軍記録文書等史料経歴票  
防衛庁防衛研修所戦史室

表題	
整理番号	
作成の部隊 庁・個人名等	
作成年月日	明治 大正 昭和 年 月 日作成 至 年 月 日 の間作成
史料 の 主 内 容	
備 考 (本史料に關 する参考事項 を記す)	
史料 の 入 手 経 路	本史料は大東亞戦争中米軍が直接戦場で鹵獲し、又は内地進駐後、陸海軍諸機関から押収した記録文書の一つであつて、長くワシントン郊外フランコニア等の記録保管所に保管されていたが、米國務省に対する日本政府の返還要求に応じ、昭和33年3月日本側に引渡され、同年4月横濱府、同月10日指定保管責任付たる防衛研修所戦史室の手に帰したものである。
責 任 者 氏 名	防衛庁防衛研修所戦史室長 防衛庁事務官 西 浦 進

昭和33年5月調整

一九一〇。南西空襲戦闘詳報目次

第一 戦闘前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

第二 戦闘ニ影響ヲ及シタル氣象、地形及住民地ノ状態

第三 彼我ノ兵力、交戦セン敵ノ團隊號、將帥ノ氏名、編成、裝備、素質

戦法

第四 各時期ニ於ケル戦闘經過

第五 戦闘後ニ於ケル彼我形勢ノ概要

第六 將來ノ参考トナルベキ事項

附表 第一 戦闘参加人員編成(職員)表

第二 死傷表

第三 鹵獲表

第四 兵器彈藥損耗表

附圖 戦闘經過要圖

南洋軍艦隊之戰況

一九一〇年南西空襲戰闘詳報

第一 戰闘前ニ於ケル彼我形勢ノ概要

彼

敵米第五艦隊第五機動部隊ハ「ハイパン」「ティヤン」作戦後同島附近ニ於テ投錨整備中ナリシガ十月初上旬「カロリナ」群島ニ南進シ臺灣及「ルソン」地區並ニ南西諸島方面ニ對スル空襲ヲ企圖セリ

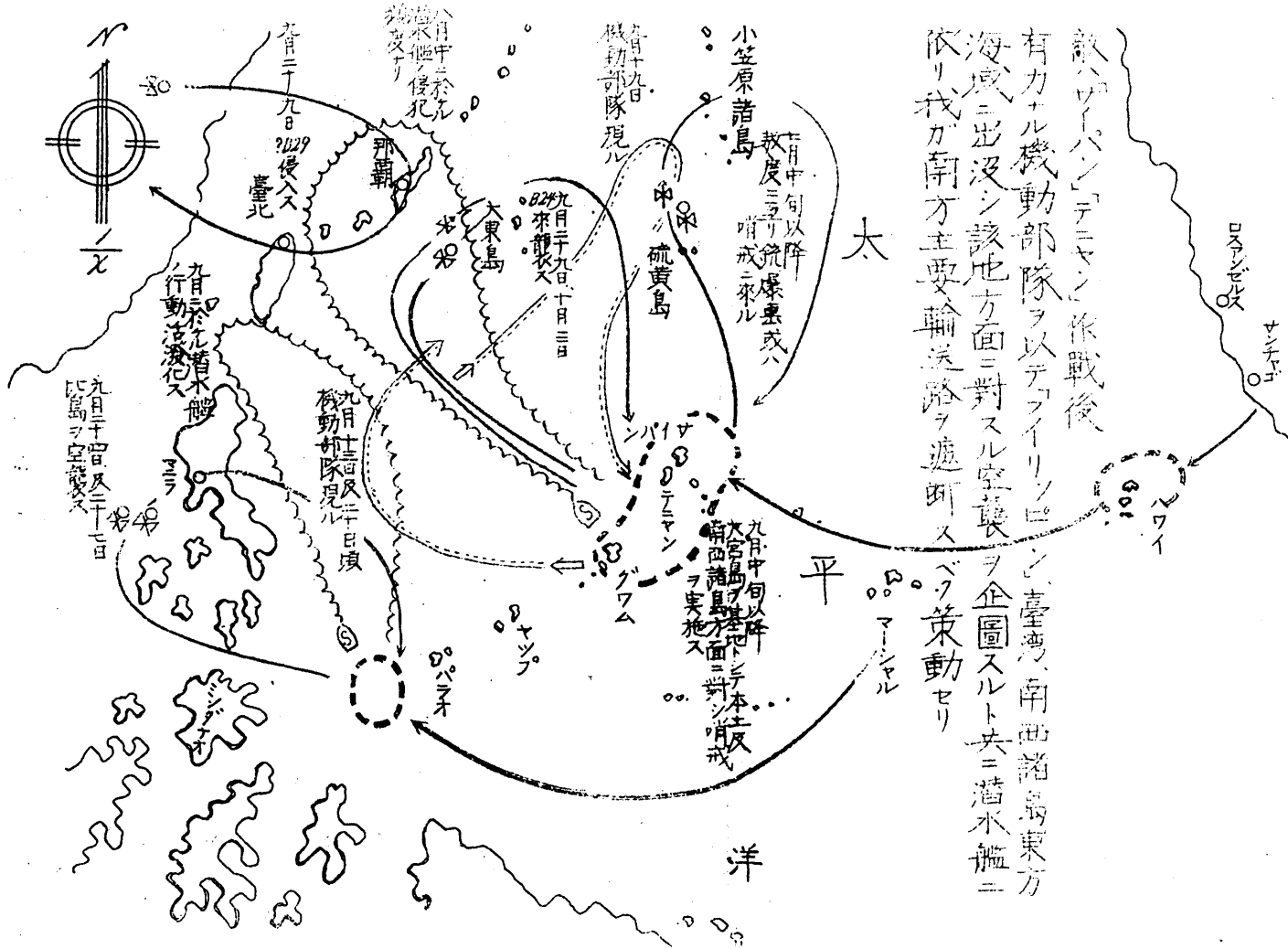
尚九月並十月初旬ニ於ケル南西諸島方面敵潜水艦ノ蠢動ハ稍低調トナリ

凡モ他面臺灣南側同東側海面ニ於ケル活動極メテ活潑化シ比島方面ニ對スル我々海上輸送ヲ遮断シ采レルハ比島作戦ノ企圖顯著ナリ

我

大隊八國土防衛ノ爲八月二十日沖繩本島ニ上陸シ爾後中頭郡浦添村西海岸ニ沿ヒ連日連夜陣地構築作業ニ邁進シタリ

戰闘前ニ於テ彼我形勢概要圖別紙ニ如シ



### 戦前ニ於ケル敵情要圖

自昭和十九年七月中旬  
至昭和十九年十月上旬

敵ハザンバシ「デニヤ」作戦後  
有カナル機動部隊ヲ以テフイリンピン、臺灣、南西諸島東方  
海域ニ出沒シ該地方面ニ對スル空襲ヲ企圖スルト共ニ潜水艦ニ  
依リ我カ南方主要輸送路ヲ遮断スベク策動セリ

七月月中旬以降  
救度ニシテヲ統率或ハ  
哨戒ニ來ル

八月十九日  
敵機侵入  
機動部隊現ル

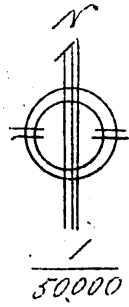
九月十九日  
敵機侵入  
機動部隊現ル

八月十九日  
敵機侵入  
機動部隊現ル

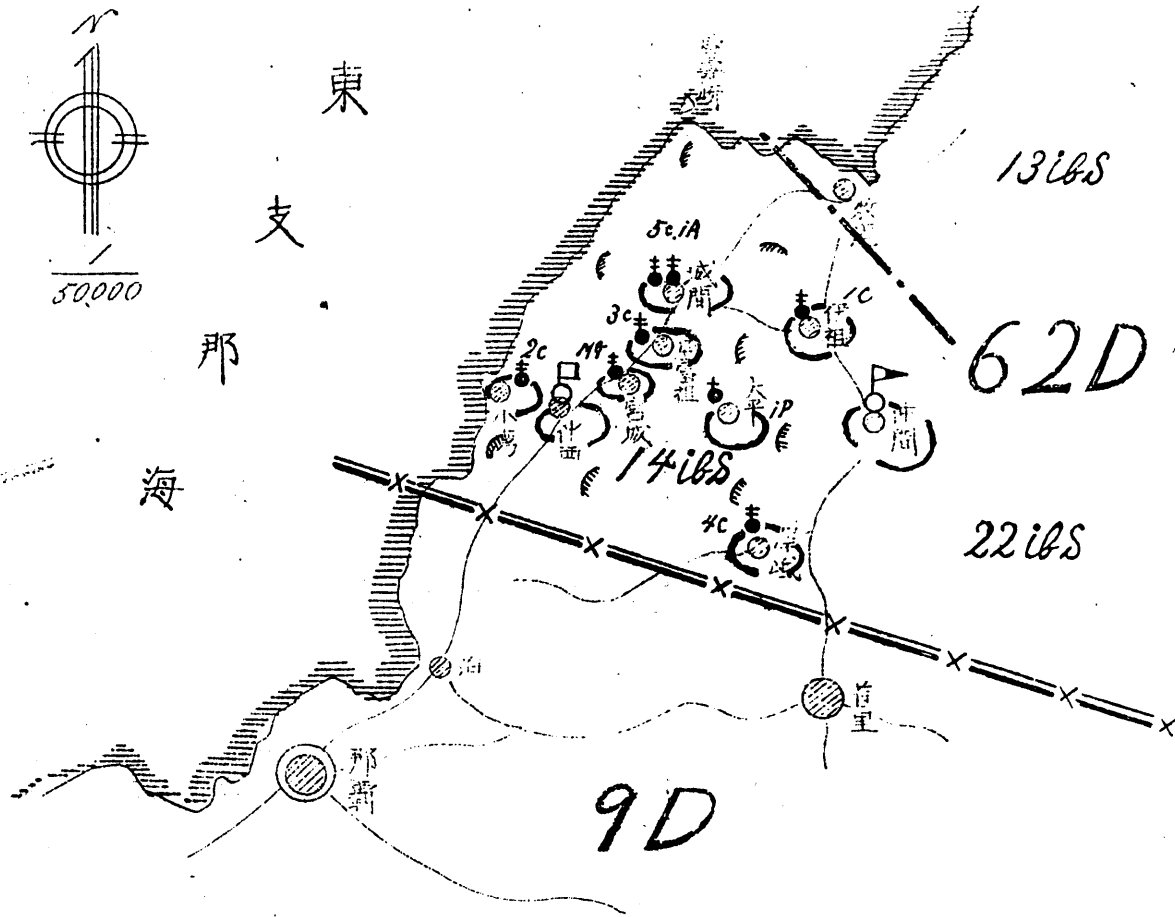
八月十九日  
敵機侵入  
機動部隊現ル

九月十九日  
敵機侵入  
機動部隊現ル

八月十九日  
敵機侵入  
機動部隊現ル



東  
支  
那  
海



戰前ニ於ケル我形勢要圖  
昭和十九年十月九日  
大隊八月二十日沖繩本島三陸シ爾後陣地構築作業  
專念シ防空施設概成近キモ陣地未定成ナリ

天候、氣象

十月十日八早朝ヨリ晴天ナレドモ晝間ニ於ケル灼熱ノ陽光ハ敵機ヲ  
ヲ背ニスル來襲ニ依リ之ガ發見困難ナルミナス矣在スル密雲  
共ニ對空射撃ヲ困難ヲ來タセリ

尚微弱ナル北東ノ恒風アリタルモ敵機ノ飛行ニ支障ヲ來タサ  
空襲最適ノ氣象ニシテ海上亦平穩ナリ

日出	六時五分	最高温度攝氏	二八・三度
日没	一八時七分	最低温度攝氏	一九・七度
月出	〇時一三分	風	東北東
月没	一四時七分	平均風速	〇・九米
月齡	二・六		

地形

海岸附近ハ一般ニ平地ニシテ東ニ進ムニ逐次波狀(丘陵)地帯トナ



海上警備隊ハ良好ニテ敵機ノ飛行ニ容易ナリ  
然レ共射撃ニ難儀ニシテ其ノ他親木林ニ在リテ上空ニ對  
テ遮蔽容易ナリクモ陣地構築初期ニシテ之ヲ秘匿六十分ナラス  
住民地ノ状態

村落ハ集團的ノモノ多キモ雜木繁茂シテ上空ノ遮蔽概ナ  
ナリ

然レ亦遺家屋多ク爆彈燒夷彈對テ抵抗力ハ皆無ナリ

第三彼我ノ兵力交戦セシ敵ノ圍隊脱將帥ノ氏名編成・裝備

素質・戦法

彼我ノ兵力交戦セシ敵ノ圍隊状

彼

第一隊 (A (2) 小型 A (2) B (3) C (3) D (10) E (10))

艦載機ニ。四一ニ一機

第二隊 (A (2) 小型 A (2) B (2) C (3) D (4))

第五ノ機動部隊

艦載機右ニ同

第三隊 (A (2) 小型 A (2) B (3) C (1) D (14))

艦載機右ニ同

第四隊 (A (2) 小型 A (2) B (1) C (3) D (5))

艦載機右ニ同

沖繩本島ニ來襲セル是機數ハ八三〇機(我が防衛擔任地區ニ來襲  
セルモノ一三二機)ニシテ第三隊ノ主力ト判断セラル

我

獨立歩兵第十四大隊長 田村大佐

外 六九ニ名

將帥ノ氏名編成・裝備 不詳

素質

戦闘指揮ノ概ネ齊整確實ニテ訓練終敵闘精神亦見ルベキモノ

アリ

戦法

大編隊ヲ以テ一舉ニ來襲スルコトナク遠方或ハ高々度ヲ以テ偵察ヲ十分實施シタル後各編隊毎ニ分散進入シ飛行場ヲ襲撃ノ施設ノ不意急襲ヲ行ヒ制空權ヲ獲得シクル後大編隊ヲ以テ全面ニ巨リ壓倒的ニ來襲ス

爆撃ヲ實施中ト雖モ各編隊交互ニ監視ヲ實施シタルコトヲ如ク一任務ヲ終了スルヤ航空母艦ニ歸艦シ補給ト攻撃ヲ齊整ナラシメ銃爆撃手時ノ外我が地上火器ノ損害ヲ減少スベク千米以内ヲ飛行セルモノ多シ

急降下爆撃手ハ認ムベキモノアリ

而テ空襲要領ハ被状的戦法ヲ採用シアリテ左ノ如シ

- 第一次 ○大宮一〇八三。 飛行場(持ニ掩体内ニ在飛行機)
- 第二次 ○又。一〇一。二五 飛行場及船舶
- 第三次 一、四五一ニ三〇 港灣施設及船舶

第四次 一ニ三五一ニ三三五 都市(特ニ那覇市)

第五次 一四三五一ニ一六〇。 都市(特ニ那覇市)

第四各時期ニ於ケル戦闘經過

大隊ハ十月八日師團命令ニ依リ丙號戦備下令セラレタルヲ以テ對空對海監視ヲ益々至嚴ナラシム

十月十日

六時三十分戦爆連令數十機ヨリ成ル敵編隊ハ東北ヨリ沖繩本島ニ侵入シ先ヅ北飛行場ニ對シ銃爆撃ヲ開始ス  
當時大隊長ハ小灣西側海岸ニ在リテ本狀況ヲ看破シタルヲ以テ即時各隊ニ對シ左記ノ如ク命ズ

- 一 各隊ハ即時戦闘配置ニ就クト共ニ所要ノ對空對海監視部隊ヲ除キ速ニ敵シタルベシ

同刻三三。高地分哨ヨリ左記電談ヲ受領ス

一六時四十分北飛行場ニ對シ數十機ヨリ成ル敵機侵入シ銃爆撃中ナリ

前記命令ニ基キ各隊ハ所要ノ監視部隊ヲ配置シ遮蔽偽裝ヲ徹底的ナラシメタリ

六時五十分頃敵機ノ一部ハ四機或ハ七機編隊ヲ以テ那霸飛行場上空ニ向ヒテ該方面ノ爆音高シ

七時頃西飛行場ノ一角ヨリ黒煙上リ敵機ノ銃爆撃次第ニ機列ニテ極メタルモ該方面ノ地上火器ハ一齊ニ射撃ヲ開始シタリ

此ノ頃上空ニ八雲影キモ敵機ハ太陽ヲ背キ巧ニ銃爆撃ヲ反復セリ

七時十分頃ニ至ルモ依然他方面ノ爆音甚キズ七時三十分頃一時静寂トナリタルモ數機ハ常ニ高度千米内外ヲ以テ旋回シアリ

八時三十分頃四機ヨリ成ル敵機ハ小灣飛行場上空ヲ超低空ヲ銃

撃ヲ開始シ來タレバ小灣ニ在リタル第二中隊ハ機ヲ失ズ射撃ヲ開始シ之ヲ撃退セシム

當時大隊長ニ同伴シアリタル大隊副官木坂少尉並野空射撃中ノ第一隊岡橋軍曹ハ機銃掃射ニ依リ負傷セリ

其ノ他我ニ損害ナク全機撃墜セザレバ止マザルノ意氣昂シ八時四十五分旅團ヨリ左記電報ヲ受領ス

- 一 現ニ空襲中ノ敵ハ太平洋方面機動部隊ナルモノ如シ一七時間數次ニ互レ空襲ノ公算大ナリ

此處ニ於テ大隊長ハ敵ノ企圖ヲ判断シ更ニ左ノ如ク各隊ニ電誌セシム

- 一 敵機ハ制空權ヲ獲得シ數次ニ互リ來襲スモノト判断セララル
- 二 對空射撃ハ撃墜圈内ニ在ルモノニ留メ極力彈藥ヲ節用スベシ
- 三 異常ノ有無ハ其ノ都度速報スベシ

九時三十分頃二十数機より城山敵編隊へ再び那霸飛行場上空に侵入シ銃爆撃ヲ開始ス

尚其一部ハ敵機ヲ以テ地上部隊ニ對シ掃射ヲ開始ス

當時第一中隊隊長長八對空監視ヲ履行中敵銃掃撃依リ腹

部ヲ貫通セリ壯烈ナル戦死ヲ遂ケ

所在地上火器ノ射撃ヲ機外ニシテ極ム

此ノ頃兩飛行場上空ニ黒煙大ヲ捲キテ

九時三十分旅團ヨリ左記電話ヲ受領ス

一敵機ニ依リ機外ヲ報告スベシ

折返シ左記ノ如ク電話ヲ旅團宛報告ス

一大隊ハ當面ノ上空ニ侵入スル敵機ヲ其ノ都度撃退中

ニ木坂少尉第三中隊岡橋軍曹機銃掃射ニ依リ負傷ノ外是

常中ナシ

同刻江馬曹長機ハ敵編隊ノ後小灣飛行場ニ不時著セリ

大隊長ハ即時大隊本部勤務小隊長市川少尉ヲ連絡ノ為現場

ニ急行セシメタルモ既に政部隊本部ニ出發セル後ナリキ

本狀況ヲ旅團司令部ニ報告セントナセルモ電話輻輳シアリテ連絡途

易ナラス師團司令部ニ速報セシム

十時稍々過ギ再ビ南々東方向ヨリ十五六機ヨリ成ル敵編隊ハ那

霸市上空ニ侵入シ港灣並ニ碇泊中ノ船舶ニ對シ銃爆撃ヲ開

始セリ

十時七分二十数機更ニ同上空ニ増加シ依然港灣並ニ船舶ヲ主目標

シアリ

然共敵機ハ常ニ上空ヲハ。一。一。〇。〇。米ノ高度ニテ旋回ス

十一時三十分再ビ戦闘機三機北方ヨリ那霸市上空ニ向ヘリ

引續キ二十数機ヨリ成ル緋隊ハ那覇市上空ニ於テ折カラズ在  
 シアリタル密雲ト太陽ヲ巧ニ利用シ急降下銃爆撃ヲ反復ス  
 目標ハ依然港灣施設ニシテ地上火器ノ猛射モ拘ラズ乱舞シアリ  
 此ノ間敵機ハ城間西側海岸ニ沿ヒ銃撃シ南方へ退避セリ  
 機関銃中隊ハ其ノ都度集中彈ヲ浴セ撃退セシム  
 都察ニ若干ノ損害アリタルモ我ニ損害ナシ  
 十二時ヨリ約三十分間東方及東北方ニ於テ爆音盛ナリ  
 十三時三十一分二十九機再ビ東北方ヨリ本島ヲ横断シ西方ニ去レリ  
 同刻那覇市上空ニ八三十数機ノ戦爆機未タリ銃爆撃中ニシテ  
 黒煙再ビ天ニ冲ス  
 然ルニ數機ハ依然地上ヲ偵察或ハ銃撃ス  
 當時第一中隊神山一等兵ハ對空監視中ナリシガ機銃彈ニ依リ  
 受傷ス  
 敵機ノ目標ハ那覇市並着明村落ニ指向サレタリ

十三時五十七分東北ヨリ仲西飛行場上空ニ飛來セル敵機ハ同地  
 附近ニ數箇ノ爆彈ヲ投下シ西方ニ去レリ  
 大隊本部亦飛行場上空ヲ超低空ニテ銃爆撃スル敵機ヲ其ノ都  
 度撃退ス  
 十四時頃那覇市上空ニ二機撃墜シテラ確認スル共ニ十四時三十分頃小灣西側海中ニ一機黒煙ヲ吐キツ、墜落セリ  
 十四時三十五分以降敵機ヲ以テ断續的ニ十数回那覇市ニ對シ爆撃  
 ヲ反復ス  
 此ノ頃那覇市ニ對シ銃爆撃ノ最熾烈ヲ極ム  
 十五時四十分頃ヨリ三十五機ヲ以テ着明目標ニ對シ爆撃ヲ開始ス  
 伴同小灣、安謝附近ニ於テ十数機ノ爆彈ヲ受クルモ損害輕微ナリ  
 對空射撃中隊ハ引續キ必中彈ヲ浴セ撃退セシム  
 同刻敵機ヨリ左記電報ヲ受領ス  
 三敵ハ墜落時空中腐臭ニヨリ及里村隊ヲ存在ノ偵察中ナリ

敵軍の侵入

敵軍は襲撃時偵察に活用され各隊の空襲を徹底スル  
十時時敵機は注意を喚起せしめ受領ス

敵機注意事項

一、敵機は本部隊の指揮所を目標として通信施設へ急襲ス  
ルコト

二、人員(馬車)等一兵一隊を暴露セザルコト部隊の駐屯スル附  
近に人員の物ヲ暴露スルコト

三、敵軍部隊長ヲ注意スルコト

四、自働車、馬車、偽裝、渡敵ニ注意スルコト

五、自働車ハ夜間燈火管制ヲスルコト

六、彈藥糧秣等ノ交付ヲ受クルモノハ分散遮蔽(掩蔽下)スルコト

大隊長ハ前記注意事項ノ即時徹底ヲ期ス  
同刻地區内上空ニハ敵機ヲ見ザルモ十六時三十五分東南方ニ於テ  
再ビ爆音銃撃音ヲ聞ク  
當時頃ヨリ雲逐次増セリ  
當面異常ナシ

一九一〇。二。南西空襲戦闘經過要圖附圖ノ如シ

第五 戦闘後ニ於ケル彼我形勢ノ概要  
彼

十月十日早朝ヨリ約十時間ニ亙リ南西諸島ヲ空襲セシ敵機動部隊  
隊ハ我が地上部隊ノ敢闘ニ依リ相當ノ打撃ヲ受ケ北島東方海  
面ヲ南下中ナリシガ十二日再ビ北上シ臺灣(ルソン)島地區ニ來  
襲ス

而シテ十二日以降我が航空部隊ノ果敢ナル攻撃ニ依リ其主力ハ

續滅シ一部ハ東方ニ敗走セリ  
我

大隊ハ十月十日執拗ニ來襲セル敵機ヲ撃退シ同日十七時四十分  
石作命甲第三七號ニ基キ一部ヲ以テ空襲ニ依ル那覇市ノ烟火  
整理ニ任ゼシメ主カハ依然不眠不休下ニ在リテ陣地構築  
作業ヲ續行セリ

第六 將來ノ參考トナルベキ事項

一 對空監視哨ノ服務ニ就テ  
對空監視哨ノ對空警戒ハ水平線或ハ空際附近ニ其ノ重點ヲ指向スルヲ  
要ス

今次來襲セル敵機ハ當初起飛空ヲ以テ候入シタルヲ以テナリ

尚彼我飛行機ノ識別ハ更ニ向上スルヲ要ス

二 對空射撃ニ就テ

敵機ノ航行速度ハ迅速ニシテ之ヲ撃墜セントセバ横行スル目標ニ對

シテハ照準困難ナリ

故ニ對空射撃ハ我ニ向ヒ來襲スルモノニ對シ遮蔽ヲ適切ナラシメ  
撃墜圈内ニアルモノニシテ射撃シ極力彈藥ヲ節用スルヲ要ス  
而テ九二式重機関銃ノ高射照準具ハ舊式ニシテ航行速度大ナル  
モノニ適用セザレバ之ガ更新ヲ要ス

三 敵機ノ戦法ニ就テ

敵機ノ銃爆撃ハ極メテ執拗徹底的ニシテ地上或ハ海上ニ一入一馬二舟  
ヲ發見センカ反復來襲ス

故ニ對空行動ニ當リテハ偽裝遮蔽ヲ更ニ徹底的ニシテ要ス

特ニ一般住民ノ對空行動ニ於テ然リ

四 空襲時ニ於テ敵機ノ使用セル各種不發彈藥ノ處理ニ就テ

今次空襲ニ依ル敵機ノ使用セル各種彈藥中相當ノ不發彈アリ  
之ガ處理ニ就テハ一般ニ好奇心ニ提ハレ取扱ヒン為不時事故ヲ發  
生セル事例地方人小供ニテアリ

故ニ不發彈ヲ發見セバ速クニサハシテ海中ニ投入スルヲ要ス  
 一般住民ニ對スル指導特ニ必要ナリ  
 五、敵ノ空襲ニ併行實施サレル宣傳ニ就テ  
 敵ノ宣傳ハ巧妙ニシテ特ニ無智ナル群衆心理ヲ惡化セシムルモノ  
 多シ  
 故ニ此ノ種宣傳物(ビラ)等ハナルベク軍自隊ニ於テ速クニ處理シ  
 民心ノ惡影響ヲ防エルト共ニ是ガ指導ヲ適切ナルヲ要ス

附表

- 第一 戰鬥參加人員編成(職員)表
- 第二 死傷表
- 第三 鹵獲表
- 第四 兵器彈藥損耗表

附圖

一九一〇。南西空襲戰鬥經過要圖



隊區分	小隊長以上		官	氏名	下兵計	馬匹	其他
	職	官					
大隊本部	大隊長	大佐	田村權一				
	副官	少尉	木坂巖				
	作戰瓦斯器	中尉	尾崎秀男				
	情報彙集	中尉	手塚正志				
	通信連	中尉	重富忠則				
	經理	少尉	岩堀一男				
	衛生	中尉	飯田一正				
第一中隊	中隊長	中尉	谷川清司				
	指揮班長	准尉	善木忠雄				
	第一小隊長	少尉	久米弘明				
	第二小隊長	少尉	神田喜郎				
	第三小隊長	少尉	井上義政				
第二中隊	中隊長	中尉	富中泰三				
	指揮班長	准尉	藤本益郎				
	第一小隊長	少尉	島田脩三				
	第二小隊長	少尉	市川恒夫				
	第三小隊長	少尉	山本武德				
第三中隊	中隊長	中尉	千葉讓				
	指揮班長	准尉	左近清三郎				
	第一小隊長	少尉	大森宗也				
	第二小隊長	少尉	関賢治				
	第三小隊長	少尉	武田秀夫				
第四中隊	中隊長	中尉	小井恒夫				
	指揮班長	中尉	森利雄				
	第一小隊長	少尉	坂口謙造				
	第二小隊長	少尉	木村正三				
	第三小隊長	少尉	古角一夫				
中隊	指揮班長	中尉	齊藤恒雄				
	指揮班長	中尉	小林研助				

十月十日獨立步兵第十四大隊編成(職員)表 昭和九年有吉調奉

一九一〇。南西空襲戰鬥詳報 附表第一



備 考	合 計	教 育 隊	勤 務 小 隊	作 業 小 隊	通 信 小 隊	步 兵 砲 中 隊	機 關 鎗 中 隊	第 五 中 隊	第 四 中 隊	第 三 中 隊	第 二 中 隊	第 一 中 隊	大 隊 本 部	隊 員 分 類		
														校 官 下 官 士 兵	將 官 下 官 士 兵	野 戰 分 隊
	38	1	1	1	1	3	3	3	2	3	3	3	11	校 官 下 官 士 兵	將 官 下 官 士 兵	野 戰 分 隊
	655	39	33	32	58	51	64	53	56	54	63	97	73	校 官 下 官 士 兵	將 官 下 官 士 兵	野 戰 分 隊
	10					4	4						2	校 官 下 官 士 兵	將 官 下 官 士 兵	野 戰 分 隊
	1											1		校 官 下 官 士 兵	將 官 下 官 士 兵	野 戰 分 隊
	1												1	校 官 下 官 士 兵	將 官 下 官 士 兵	野 戰 分 隊
	2										1	1		校 官 下 官 士 兵	將 官 下 官 士 兵	野 戰 分 隊
	1													校 官 下 官 士 兵	將 官 下 官 士 兵	野 戰 分 隊
														校 官 下 官 士 兵	將 官 下 官 士 兵	野 戰 分 隊
														校 官 下 官 士 兵	將 官 下 官 士 兵	野 戰 分 隊

五月十日獨工步隊中士四人隊死傷未  
 野戰十九年五月十日調製

品	獲	敵	傳	損	傷	種	隊	
							分	名
藥	彈	器	天	俘	遺	棄	屍	
								隊大
								隊中一第
								隊中二第
								隊中三第
								隊中四第
								隊中五第
								隊中銃機
								隊中砲步
								隊小倉通
								隊小業作
								隊小務勤
								隊育教
								計合

十月十日獨立步兵第十四大隊敵獲表 昭和九年有古調製

一九一〇。一〇。南西空襲戰詳報 附表第三

備考	損兵		費藥		油		額區	
	器	兵	四二砲	九二式重砲	九二式重砲	九二式小銃	分	隊
						42	隊本	大
							隊中	第一
							隊中	第二
					100		隊中	第三
				30			隊中	第四
				238	210		隊中	第五
			1830				隊中	機
		/			55		隊中	步
					5		隊中	砲
							隊中	重
						120	隊中	粉
							隊中	...
							隊中	...
							隊中	...
							隊中	...
							隊中	...

十月廿一日西隊兵損費藥核表

一九二〇。南西空襲戰厨詳報附表第四

元 D.D. 一 空襲戰經過要圖 自一至六三〇

